

⚠ 注意



禁止

強い衝撃を与えたり、落下させないでください。
※動作・外観が正常な場合でも内部の止水構造が壊れている可能性があります。



必ず実行

施工はこの設置説明書に従って確実に行ってください。(感電、火災、水漏れの原因になります)
※この設置説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障が生じた場合は商品の保証をしかねますのでご注意ください。



必ず実行

漏電遮断機が取り付けられている事を確認する

もし取り付けられていなければ電気工事店へ依頼して必ず取り付けてください。感電するおそれがあります。



アース線接続

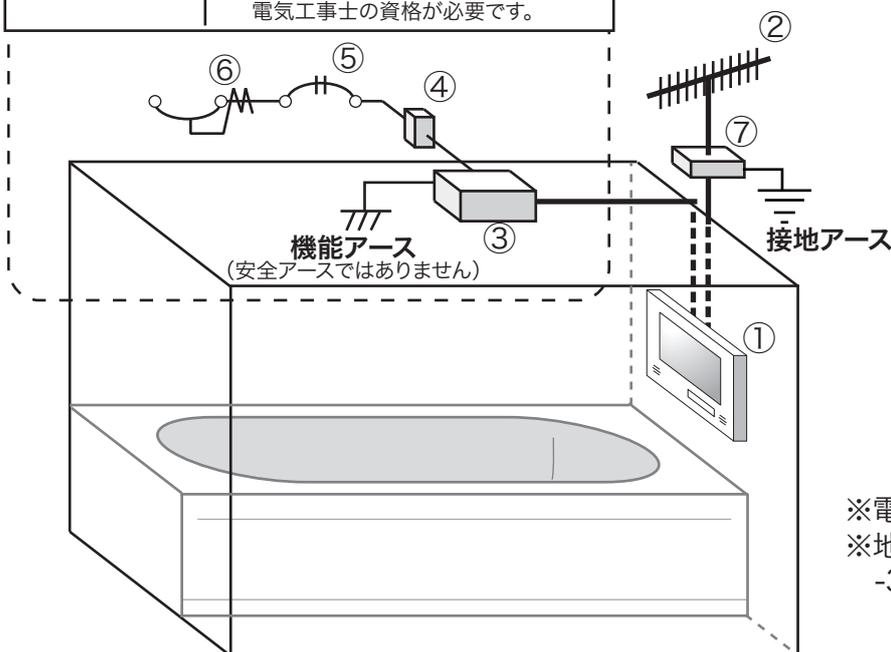
電気工事は、関連する法令・法規にしたがって、必ず『有資格者(電気工事士)』が行う。
接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電のおそれがあります。

防水テレビシステム図(推奨施工図)



注意

工事の際は、必ず室内開閉機(ブレーカー)と漏電遮断機を設置してください。
※電気工事で配線します。
※室内開閉機(ブレーカー)の設置には、電気工事士の資格が必要です。



①地上デジタル防水テレビ(ワーテックス)

②UHFアンテナ

③電源ボックス*(ワーテックス)

④避雷器

参考例
HA-13:音羽電気KK

⑤室内開閉機(ブレーカー)

⑥漏電遮断機

⑦ブースターorアッテネータ

※電波が弱い場合はブースターを、電波が強い場合はアッテネータを使用して、適切な信号レベルに調整してください。

※電源ボックスが付かないタイプもあります。

※地上デジタル放送は -58dBm(50dB μ V) 以上
-30dBm(79dB μ V) 以下が必要です。



必ず実行

注意

・落雷に備えて、アンテナ設備にアースを取るか、保安器を必ず設置してください。